

## 目次

法文化学会第6回研究大会・総会を終えて.....	1
法文化学会第7回研究大会について.....	2
叢書『法文化 歴史・比較・情報』.....	3
叢書第4巻の編集について.....	3
叢書第5巻の発刊について.....	3
叢書第6巻の企画募集について.....	3
叢書第5巻『コンセンサスと法文化』(仮題)原稿募集のご案内.....	3
事務局からのお知らせ.....	4
2002年度会計報告.....	4
年会費納入のお願い.....	4
入会の申込について.....	4
法文化学会入会申込書.....	5

## 法文化学会第6回研究大会・総会を終えて

法文化学会事務局 岩谷十郎(慶應義塾大学)

2003年10月18日(土)・19日(日)、法文化学会第6回研究大会が、山梨学院大学にて開催されました。本学会創立以降、学会開催地が東京を離れたことは、これが初めてでした。大会開催をお世話下さった山梨学院大学の佐藤信夫理事、ならびに同大学職員の方々のご協力に感謝致します。

18日は、午後0時30分から、総会が開かれ、1時より報告が開始されました。報告は、順に、藤本幸二会員・屋敷二郎会員司会による「身体刑と生命刑の連続性、あるいは非連続性 近世ド

イツの刑事法規定を題材にして」、奥田敦氏(慶應義塾大学総合政策学部助教授)・山内進会員司会による「イスラーム法における身体性 ラマダーン月のサウム(齋戒)を中心に」、高塩博氏(国学院大学日本文化研究所教授)・岩谷十郎会員司会による「江戸時代の身体刑 徳川吉宗の創出した『敲』」が、休憩をはさんで、4時半過ぎから、森田成満会員・王雲海会員司会による「清代に於ける医療提供体制と違法な治病に対する処罰」が為され、それぞれフロアと報告者との活発な質疑応答が展開されました。

以上、今回は計4本の報告からなる日程でありましたが、学会叢書、『法文化 歴史・比較・情報』第4巻で特集として取り上げる「法と身体」を学会テーマに据え、西洋・日本・イスラーム・中国と多角的・多文化的な視点からの興味深い報告と熱心な意見交換が為され、盛会のうちに終わりました。また、上記した総会では、事務局から昨年度の学会活動報告、ならびに会計報告などが為され(後掲)、同時に叢書『法文化 - 歴史・比較・情報』第3巻・第4巻・第5巻の編集の件(後掲)などについての提案、さらに新入会員の紹介など(奥田敦氏・上掲、鈴木直志氏・桐蔭横浜大学助教授)、いずれも全会一致で承認されました(所属・職位は、大会開催時のもの)。

懇親会は、大学から貸し切りバスで約10分程のところにある、石和の瀟洒なレストラン、「ポルド

ー・クラシックハウス」にて行われました。佐藤信夫理事の種々のお計らいで、美味しいワインとお料理に囲まれた和やかな雰囲気の中で、しばし歓談の時を過ごしました。

翌19日は、今回の大会主催校、山梨学院大学が中心となって企画したシンポジウム(法文化学会との共催)、「ユダヤ・イスラームにおける法と身体」が、同大学のクリスタルタワー8階(当初予定会場は変更)で開かれました。一般向けに開放されたこのシンポジウムでは、10時に山梨学院大学法学科長・小野寺規夫氏からのご挨拶に続き、長内了氏(中央大学前法学部長)の司会の下、奥田敦氏、藤井啓之氏(Touro College Jacob D.Fuchsbery Law Center・法学博士)の発表が為されました。佐藤信夫会員のリードの下、活発な討論が行われました。

## 法文化学会第7回研究大会について

第7回研究大会を以下の要領で行います。報告を希望される方は、6月末日までに、学会事務局(慶應義塾大学法学部、岩谷十郎)までご連絡ください。テーマにつきましては、叢書第5巻編集についての下記の趣旨説明をごらんください。また、自由報告も予定しておりますので、テーマ以外の題目で報告を希望される方も歓迎いたします。

なお、報告希望者多数の場合は、学会事務局と大会開催校とで相談のうえ、報告者を決めさせていただきますので、予めご承知おきください。

1. 日程: 2003年10月23日(土)午後1時より
2. 会場: 埼玉県飯能市阿須698 駿河台大学
3. テーマ: コンセンサスと法文化

事務局からのお願い ご報告をご希望される方は、法文化学会事務局まで、氏名・ご所属・連絡先・ご報告の題目(仮題でかまいません。またテーマ報告か自由報告かの別をもお知らせ下さいましたら幸いです)をご明記の上、上記日付までに以下のいずれかの要領でお送り下さい。なお、研究大会についてのお問い合わせも以下にてお受けいたしております。

・郵便: 〒108 - 8345

東京都港区三田2 - 15 - 45 慶應義塾大学法学部内 法文化学会

・FAX: 03 - 5427 - 1578 慶應義塾大学法学部内 法文化学会

・E-mail: juro@law.keio.ac.jp

\* ご報告を希望された方には、8月下旬頃に会員連絡用のご報告要旨のご提出をお願い申し上げます。これにつきましては、後日、事務局よりご連絡させていただきます。

## 叢書『法文化 歴史・比較・情報』

### 叢書第4巻の編集について

現在、森田成満会員を編者として叢書第4巻、『法と身体』の編集が鋭意進められています。年内の刊行をめざしております。皆様のご協力の程、宜しくお願い申し上げます

明をお読みの上、下記の申込締切日までに学会事務局(慶應義塾大学法学部、岩谷十郎)に題目(仮題で結構です)をつけたうえで、お申し込みください。なお、採否は編者とともに編集委員会が行うことになっておりますので、その点はお含みおさください。

### 叢書第5巻の発刊について

叢書刊行委員会では、叢書第5巻のテーマを「コンセンサスと法文化」とすることに決定致しました。執筆を希望される会員は、以下の趣旨説

### 叢書第6巻の企画募集について

叢書第6巻のテーマを募集します。意見のある方は学会事務局までお伝えください

## 叢書第5巻『コンセンサスと法文化』(仮題)原稿募集のご案内

法文化学会叢書第5巻編集担当 津野義堂(中央大学)

西洋的、ロマン主義的理解では、コンセンサスとは、本質的な事柄についての単独のあるいは複数のあいだでの「意思の合致」である。それはなによりもまず"買いと売り"(売買)に代表される諾成契約にかかわる。したがって、そのドメインは、まずは私法、それも契約に代表されるオブリガチオである。ユースターニアヌス法学提要3巻22章(Inst Inst 3, 22)「コンセンサスによる(諾成の)債務関係について」を参照してほしい。日本にせよ東洋にせよイスラームにせよ、戦争も医療も結婚も信仰も、コンセンサスなしに済まないことは争いがないだろう。ヨーロッパのコンセンサス概念が、その成立についても、ディセンサスについても、CONSENSUS CONTRACTUS についてさえ、婚姻のモデル抜きには考えられないということは、意義深いかもしれない。コンセンサスは、歴史の流れにも、地理的な広がりにも、哲学的な位置付けにもかかわる文化的な実在なのである。

このコンセンサスの意味について、そもそも私たちには共通の理解があるだろうか? コミュニケーションの可能性を見極きわめること自体が、大きな課題であるようにも思われる。まさしく法文化のエンティティであるコンセンサスに関して、多様な観点から、会員の皆様の意欲的な寄与を期待したい。

1. 原稿申し込み締切日: 2004年7月16日

2. 原稿提出締切日: 2005年3月末日(締切日厳守)
3. 刊行予定: 2005年7月
4. 原稿枚数: 200字詰め原稿用紙で100枚以内

#### 事務局からのお知らせ

##### 2002年度会計報告

2002年度の会計(2002年9月1日～2003年8月31日)につきましては、白川和雄会員に監査をいただき、上記総会にて承認されました。

##### 2002年度 収支

総収入	874,719
総支出	535,378
次年度繰越金	339,341

##### 2002年度 収入内訳

年会費	200,000
繰越金	674,719
計	874,719

##### 2002年度 支出内訳

複写費	14,924
振替印字	600
郵便料金	32,750
文具代	3,076
叢書第2号刊行費	480,028
事務局アルバイト代	4,000
計	535,378

##### 年会費納入のお願い

学会員各位におかれましては、2003年度(2003年9月1日～2004年8月31日)の会費(5000

円)の納入をお願いいたしたく存じます。

2001年度より、学会費を5000円に値上げいたしました。この年会費には、叢書『法文化 - 歴史・比較・情報』の購読料3000円が含まれております。現在、遅れてはおりますが、叢書第3巻の刊行が間近に迫っておりますので、何卒、ご納入の程ご協力お願い申し上げます。

同封致しました郵便振替にてお支払い下さい。ご不明の方は事務局までご照会下さい。

郵便振替口座番号:00130-4-659540

口座名義:法文化学会

##### 入会の申込について

ニューズレター最終頁には、法文化学会入会書式を掲載しております。入会を希望される方に複写してお渡しいただければ幸いです。入会資格者は、大学院の修士課程在籍者を含みます。必要事項を書き込まれましたら、事務局まで郵送下さい(入会には理事会の承認が必要です)。

## 法文化学会入会申込書

法文化学会 御中

年 月 日

私は法文化学会の規約を承認し、下記の会員の推薦をもって、貴会への入会を申込みます。

ふ り が な  
氏 名

生 年 月 日 年 月 日

現 住 所 〒

Tel :

Fax :

Mail :

所属・地位

所属先住所 〒

Tel :

Fax :

Mail :

専 攻

最 終 学 歴 (卒業年次)

研 究 業 績 (主要なものを記して下さい。研究業績の無い場合には、従来の研究上の関心、今後の計画について記して下さい。)

学会よりの郵送・連絡先にどちらを希望されますか。( 現住所 ・ 所属先住所 )

学会名簿には、氏名・生年・現住所及びTel/Fax/Mail・所属・地位・現住所及びTel/Fax/Mail・専攻が記載されます。この内特に記載を希望されない事項のある方はお書き下さい。

( )

同氏の法文化学会への入会を推薦いたします。

氏名 \_\_\_\_\_ 印